

3月 の教室・行事予定

日	曜	教室・行事等
2	月	いきいき百歳体操 (10:00~11:00) 大町体操 (14:00~15:30)
4	水	フォークダンス (10:00~12:00) クラフト手芸 (13:00~15:00)
6	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:00~20:30)
9	月	いきいき百歳体操 (10:00~11:00) 大町体操 (14:00~15:30)
10	火	茶道 (13:30~15:30)
11	水	クラフト手芸 (13:00~15:00)
13	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:00~20:30)
14	土	ふれあい料理教室 (9:00~12:00)
16	月	いきいき百歳体操 (10:00~11:00) 大町体操 (14:00~15:30)
18	水	フォークダンス (10:00~12:00) クラフト手芸 (13:00~15:00) 健康相談 (13:30~15:30)
20	金	春分の日 
23	月	大町体操 (14:00~15:30)
24	火	茶道 (13:30~15:30)
25	水	クラフト手芸 (13:00~15:00)
27	金	健康体操 (13:30~15:30) 南子ども会 (19:00~20:30)

～毎月10日は人権を考える日～
令和6年度「西条市差別をなくする市民の集い」における人権に関する作品展示の中から、市内高校生の作品（人権標語）の一部を紹介します。

- ・1人1粒 思いやりの種まけば 根をはり社会のあたり前になる
- ・“ありがとう” だれかの明日を 照らしてる
- ・その言葉 相手の立場で 考えよう
- ・笑顔の裏で 見えない心が 泣いている
- ・不一致は 違いではなく 良い個性
- ・違うよなあ 一人一人の 普通って
- ・あいさつは 仲よくなれる 一言だ
- ・世界に一人の あなたを大切に
- ・まず一步 ひとつの声かけ 少しの勇氣
- ・認め合い 互いを尊重 広がる笑顔

**大町会館をサークル活動などで
利用しませんか？**

大町会館では地域交流の場として、多くのみなさんが会議室等を利用して様々な活動をしています。大・小の会議室や調理室などをお貸ししていますが、現在、曜日や時間帯によっては部屋に空きがあります。

ご希望があれば、有効に活用していただければと考えております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

大町会館 ☎55-5393

ここ大町会館（隣保館）は、人と出会い、交流、つながる場です。偏見や差別、排除のない多様な生き方やこれからの社会の在り方を語り合う場です。人と人がつながり合う社会に関心がある方、何かを始めたいと思っている方、お気軽にお立ち寄りください。ご心配事、悩み事など各種相談、お申込み・お問い合わせは、**西条市大町会館（☎0897-55-5393）**まで、お気軽にご相談ください。

大町会館だより3月号



2026(令和8)年3月 No.311
発行:西条市大町会館

〒793-0035 西条市福武甲 1644-1
TEL・FAX (0897) 55-5393
E-mail omachikaikan@saijo-city.jp

人権力〔意識&行動〕のアップデートを ～ 学び合い、高め合う場 ～

西条市を中心に各種団体や組織では、部落問題をはじめとする様々な人権課題の解決や人権尊重の意識を高めるための行事や活動に年間を通して取り組んでいます。身近なところでは、「毎月10日は人権を考える日」の人権啓発チラシや毎月本館発行の大町会館だより、年5回程度開催の西条市人権・同和教育講座、または2年に一度の人権啓発劇など、自身の人権力〔意識&行動〕を高め、さらにアップデートするための場や機会、情報は数多くあります。今回は、そのような活動のうち、この1月、2月に行われた2つの行事やその内容を紹介いたします。

西条市子ども会育成会交流学習発表会

1月31日(土)、市役所の5階大会議室で行われました。この発表会は、長く続いている歴史と伝統のある行事で、合併後は西条市全体の子どもの会の交流と学習の場となっています。時代の動きや少子化の影響、またコロナ禍などに伴い、参加の子ども会は少なくなってきましたが、今年度も市内より4つの子どもの会が集まり、日頃の活動の様子や研修や活動からの学びを発表し合い、交流を深めました。

各子ども会の発表内容は次の通りです。

- ① 県外研修より ～ 教科書無償化運動に学ぶ（神戸コスモス子ども会）
- ② 香川県高松市沖 ～ 大島青松園に学ぶ（大町竹の子会 友の会ジュニア）
- ③ 北条新田子ども会の活動について（北条新田子ども会）
- ④ 新市子ども会・ひまわり会の活動紹介（新市子ども会・ひまわり会）

それぞれの子どもの会の発表に続いて、道前太鼓のみなさんによる迫力ある太鼓のパフォーマンスと体験教室が行われました。子どもたちも自身の発表をし合う中で、相互の交流を通して学び合い、高め合う貴重な学習の場となっています。



第311回 会館ミニ展示会

『水彩画作品展』

【日 程】2月23日(月)～3月6日(金)

【場 所】大町会館1階廊下

【提 供】水彩画サークルタッチのみなさん

西条市人権・同和教育研究大会

去る2月7日(土)の午後、西条市人権・同和教育研究大会が開催されました。全体会を中央公民館多目的ホールで、その後の分科会は中央公民館(社会教育分科会)と西部総合福祉センター(学校教育分科会)で行われました。この行事も市町村合併後は2月初旬に西条市全体で開催される歴史ある人権意識の向上と啓発を図る西条市最大の研究大会です。

この研究大会は、発表を通じた知識の共有だけでなく、社会教育や学校教育における実践や課題を解決するための貴重な場です。今年度も社会教育と学校教育等それぞれの分科会で2本の実践報告がありました。報告の内容は次のとおりです。

【学校教育分科会】

- ① (就学前教育) 「ぼくを見てや」 (花園保育園)
- ② (学校教育) 「一人一人が安心して過ごせる学校づくり ～河北中学校の取組～」 (河北中学校)

【社会教育分科会】

- ① (社会教育) 「地域や学校を繋ぐ人権・同和教育 ～だれもが住みよいまちをめざして～」 (壬生川公民館)
- ② (企業・行政) 「100年安心して暮らせる小松をめざして」 (ふるさと小松立志隊)

当日は、2つの会場それぞれの分科会に合わせて200名を超える参加者のもと、全体会から8名程度の小グループによる班別の形態で各報告を聞き合い、その後、質疑応答～班別協議～班別報告・全体協議～助言という流れで行われました。本研究大会は、二市二町の合併以前より開催され、半世紀を超えて継続されているものです。市内の保育園・幼稚園・小中高等学校の関係者及び社会教育に関わる各種施設・団体や企業・行政の代表者等、共通の協議題に基づいて様々な立場からの意見交流を図りながら、自身や各種機関・団体、職場、地域、そして家庭での人権に関する実践や啓発活動を振り返り、人権意識を見つめ直してさらにアップデートしていく有意義かつお勤めの学びの場です。

ぜひとも、みなさんも一度参加してみませんか(^_^)



受け入れること

西条市立小松中学校 2年 畑中 希心

僕は難聴だ。この障がい、悲しい出来事もたくさんあった。それでも今、みんなは難聴の僕を受け入れてくれている。僕は、生まれつき音が聞こえない。生まれてすぐは乳を全然飲まず、死にかけたらしい。ようやく乳を飲むようになった後、僕は耳が聞こえないのだと親は医者から聞かされた。母はショックで、とても悲しんだ。それでも、僕を幸せにしようと、一歳二か月の時に右耳、一歳六か月の時に左耳の手術をして、人工内耳というものを付けた。それで、音が聞こえるようになった。

とても不思議だった。なぜ、障がい者である僕を幸せにしようとしてくれるのか。でも、そのことを両親には聞けなかった。そして、僕は松山聾学校の幼稚部という難聴のための幼稚園に入学し、卒業後は地元の小学校に入学した。みんなと初めて出会った場所だ。

みんなは僕のことをとても不思議そうに見てきた。だけど、すぐに仲良くなった。けれど、友達と呼べるほど仲良しになれる人はいなかった。そして、何か月か過ぎると、一人、また一人と離れていき、僕はとうとう一人ぼっちになった。とても悲しかった。もっとみんなと話したい。けれど、話したら嫌われそうだという気持ちが強かった。だから、担任の先生と話したり、本を読んだりして過ごすことが多かった。正直、寂しかった。ただ家では、オンラインゲームで楽しく過ごすことができた。僕の心の休けい所だった。

五年生になったある日、オンラインゲームのチャットで、「僕、実は難聴なんだ。」と思いついて言った。すると、「難聴は帰れ。」と心ない言葉を投げられた。その後も「障がい者は要らない。」「とっとと消えて！」など、残酷な言葉をいくつも投げられた。そして、ついには仲が良いと思っていた人からも悲しい言葉を投げられ、いじめられた。とても辛くて、悔しかった。大切な人に裏切られ、たまらなかった。障がい者として生まれたことを僕は憎んだ。

最悪の気持ちがしばらく続いた。でも、ネットでいじめられたことや難聴という障がいについて、みんなに知ってもらいたい、だまっってはいけないという気持ちの方が強くなっていった。それで勇気を出して、別のオンラインゲームで、再び「難聴だ。」と打ち明けた。すると、仲の良い人たちから、「どうして早く言ってくれなかったの。」となぐさめられた。こんな自分を受け入れてくれる人がいると思ううれしかった。救われた思いがした。そして、もっと多くの人に難聴のことを知ってほしいと思うようになった。だから、小学校でも勇気を出してみんなと話すようになった。すると、そのうち友達と思える人ができ始めた。毎日の学校が楽しくなった。

僕は小学校を卒業し、中学校に入学した。そして、他の小学校の生徒とも一緒になった。少年自然の家や体育大会などの行事で、心配事はいろいろとあった。でも、みんなのサポートがあり、楽しく過ごしたり練習したりできた。みんなは僕のことを受け入れてくれていると安心している。

けれど、まだ不安が心の底にある。また、いじめられるのではないかと心配が、心の中から消えない。僕はおそろおそろ友達に聞いてみた。

「なぜ、僕を大切にしてくれるの？」と。

すると、

「君は友達だから、難聴だったとしても、それ以外は同じだから。」

と言ってくれた。その言葉で、今まで僕に関わってくれた家族や大人たちが、なぜ可愛がってくれたり、怒ってくれたりしたのか、疑問が全て解けた気がした。僕は、自分を健常者とは別の、違う存在のように感じていたが、家族や大人は、同じ子どもとして、対等に見て接してくれていたのだ。心の底から感謝し一人で涙を流した。

僕は今、普通に生活を送っている。家族がいて、友達もいる。だけど、難聴という他の人とは少し違う生活を送っている。不便なところはあるが、それ以外は何も変わらない。

人はみんな、それぞれ人権を持っている。人権は、この世の中で、人らしく幸せに生きる権利だ。健常者の人たち、難聴者の人たち、他に障がいのある人たち、人権はみんなに平等に与えられている。それなのに、少しの違いを理由に、受け入れなかったり、いじめたりして奪ってはいけない。障がいがあっても同じ人間なのだ。それぞれの個性を受け入れて認め合うことで、みんなが幸せになれる。もし困っている人がいたら、こう言いたい。「みんな同じ人間だ。だから、胸を張って前を向こう。」

僕は、これからも明るく幸せに生きていきたい。